

# 間断かん水を行って根の活力を維持！

## 斑点米カメムシ類多い！地域ぐるみで徹底防除！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

### ◎ 生育概況

7月20日現在、平坦部「はえぬき」の生育は、平年に比べ、草丈は長く、茎数は少なく、葉数はやや多く、葉色は並の状況となっています。

農業総合研究センターの幼穂調査によると、出穂期は概ね平年並と予想しています。

平坦部「はえぬき」の生育（7月20日）

項目	調査値	平年値	平年比・差	
草丈	72.4 cm	68.0 cm	106	平年より長い
茎数	577 本/m <sup>2</sup>	621 本/m <sup>2</sup>	93	平年より少ない
葉数	11.9 枚	11.5 枚	0.4	平年よりやや多い
葉色 (SPAD)	40.4	40.6	-0.2	平年並

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

予想出穂期（7月20日現在、農業総合研究センター調べ）

品種名	場所	予想出穂期	平年出穂期*	平年差
はえぬき	山形市みのりが丘	8月3日	8月3日	±0日
	鶴岡市藤島	8月1日	8月2日	-1日
雪若丸	山形市みのりが丘	8月2日	8月3日	-1日
	鶴岡市藤島	8月1日	8月2日	-1日
つや姫	山形市みのりが丘	8月8日	8月8日	±0日
	鶴岡市藤島	8月9日	8月8日	+1日

※過去7か年（H27～R3）の平均値

### ◎当面の技術対策

7月14日発表の1か月予報（7月17日～8月16日）では、平年に比べ、気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されています。

今後も気温が高い状態が続く見込みであることから、出穂が早まる可能性もあります。高品質でおいしい米を生産するために、生育状況を観察し、気象の変動に十分注意しながら、きめ細かな栽培管理を行いきましょう。

#### (1) きめ細かな水管理の徹底 ～間断かん水で根の活力維持、出穂前後は花水～

出穂前までは間断かん水を行って土壌を酸化的に保ち、根の活力を維持します。

また、出穂・開花期は、水を最も必要とする「花水」の時期となります。出穂直前から穂揃期までは2～5cmの水深を保ち、穂揃期後は間断かん水や飽水管理に移行します。

出穂後6～10日頃の高温が最も胴割粒の発生に影響します。高温が続く場合は、用水の効率的な利用に努めつつ、冷たい水との入れ替えで水温・地温が低下するように管理します。

フェーン現象の発生が予想される場合は湛水し、稲体を保護します。

## (2) 斑点米カメムシ類対策 ～地域で時期を合わせて防除を～

斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。斑点米カメムシ類の薬剤防除は、出穂状況をよく確認し、穂揃期及び穂揃期7～10日後の2回を基本とし、地域で時期を合わせて一斉に防除すると効果的です。

出穂期前後にやむを得ず草刈りを行う場合は、水田の薬剤防除直前に実施します。

## (3) いもち病対策 ～基本防除の徹底～

いもち病の感染に好適な気象条件となる日が多くなっており、一部の地域では、葉いもちが確認されています。葉いもちの発生・拡大は、穂いもちの多発につながり、収量・品質に大きな影響を及ぼします。

出穂直後の穂は、最もいもち病に感染しやすいことから、穂いもちの薬剤防除は、穂ばらみ後期と穂揃期の2回防除を基本とします。防除時期に雨の日が続いた場合は、防除間隔が開きすぎないように注意して実施します。

## つや姫 の生育と技術対策

7月20日現在の「つや姫」の生育は、平年に比べ、草丈は長く、茎数はやや少なく、葉数は並、葉色はやや淡い状況となっています。出穂期は、農業総合研究センター（山形市みのりが丘）では8月8日頃（平年8月8日）、水田農業研究所（鶴岡市藤島）では8月9日頃（平年8月8日）と予想され、概ね平年並と見込まれます。

食味、品質を高めるポイントは、きめ細かな水管理です。ほ場に水を溜めっぱなしにしたり、差し水管理では根腐れを起こします。出穂前までの水管理は、異常低温、異常高温時以外は間断かん水を基本とし、根の活力を維持します。

畦畔や排水口の点検・補修、作溝の手直し等を行い、今後も適正な水管理が行えるようにしましょう。

「つや姫」の生育（7月20日）

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	73.4 cm	68.9 cm	107 平年より長い
茎数	514 本/m <sup>2</sup>	530 本/m <sup>2</sup>	97 平年よりやや少ない
葉数	11.3 枚	11.4 枚	-0.1 平年並
葉色 (SPAD)	36.9	38.8	-1.9 平年よりやや淡い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

## 農作業事故と熱中症に十分注意してください！

農作業事故（重大事故）の発生件数が、例年よりも多くなっています。

農作業事故防止のための基本的な対策を再度確認し、徹底しましょう！

**休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！**

**農薬はラベルをよく読んで使用しましょう！**

農薬危害防止運動実施中